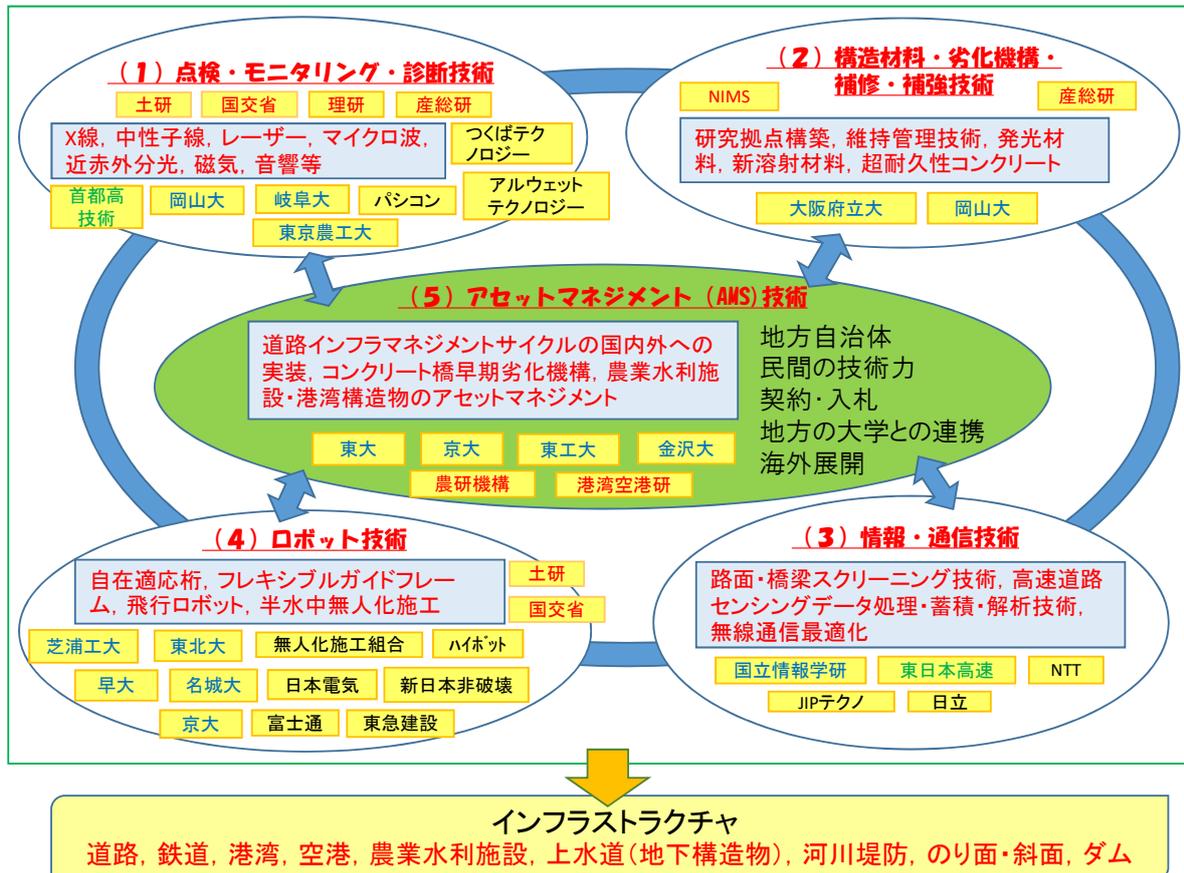


土木をおもしろく 新技術開発の活性化

田崎 忠行



社会資本の絶対量が
決定的に不足していた
時代

社会資本が一定程度
整備され、その活用・
メンテナンスも重要視
れる時代

大量生産
基準化・標準化
コスト重視
発注者主導の新技术
活用

単品生産
創意工夫
性能＋コスト
民間主導の新技术活
用

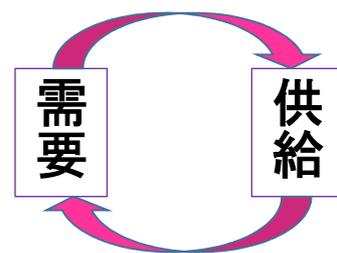


集中

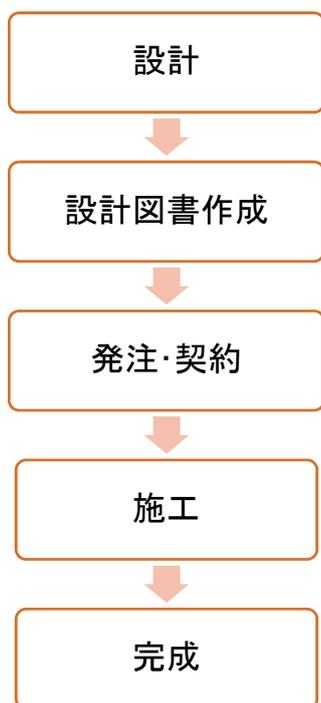
分散

新技术の発案者

- 需要者
 こんなものが欲しい
 - 供給者
 こんなものを開発したけれど、誰か使って欲しい
- 日用品の場合は?
 - 公共土木事業の場合は?



一般的な公共事業執行の流れ



新技術の採用は発注者の
キャパシティに依存

技術基準に従い設計

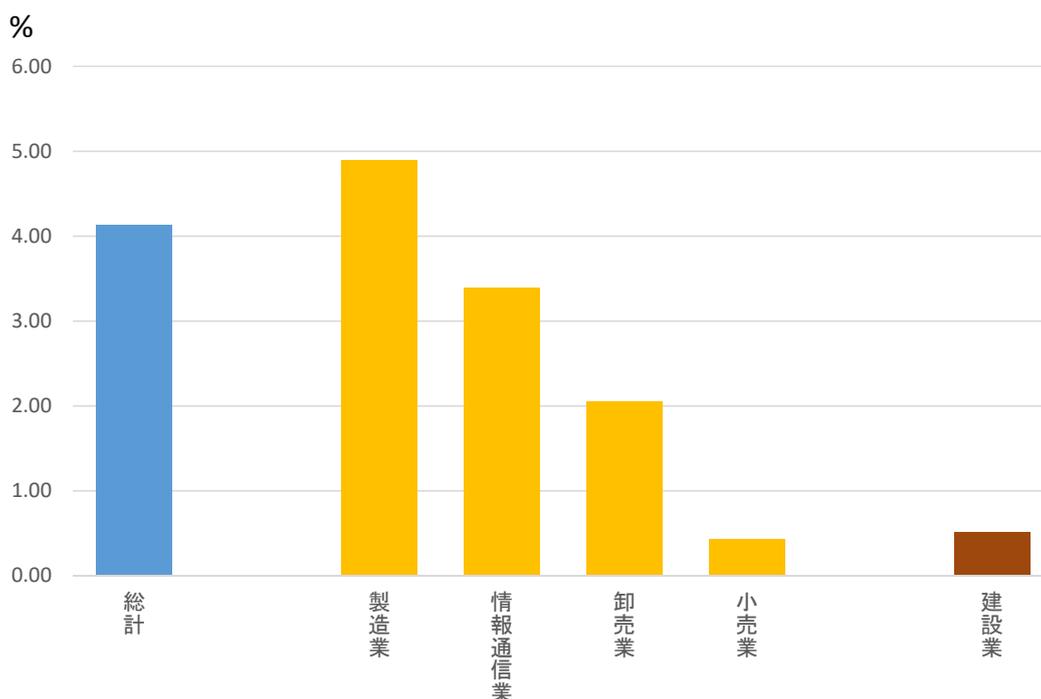
技術基準に則り、積算、仕様書作成

技術と価格で競争
技術提案は工事目的物ではなく、主として
施工の安全、環境、効率等に関わるもの

設計図書どおりのものを施工
施工方法は受注者の任意

5

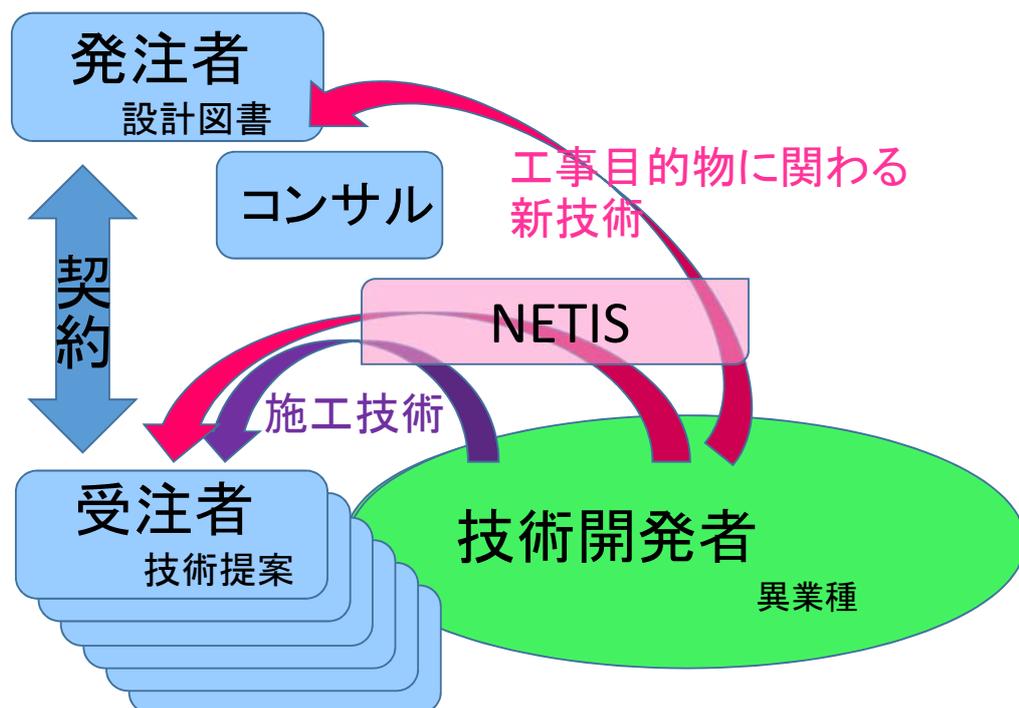
産業別 研究開発費/売上高



総計には建設業を含まない
建設業は日建連調査39社平均
建設業以外は経済産業省経済活動基本調査

6

新技術の活用を民間主導に



7

この仕組みを導入するには;

- 発注者は工事目的物の(仕様ではなく)性能を規定
- 性能規定の基準が必要
- 発注者の技術評価体制
- 受注者(技術提案者)も一定のリスク負担
- 保険制度

この仕組みのポイント

- 個別案件ごとに最適な技術を提案、採用
- メーカー、ゼネコン、コンサルが共同して新技術開発する可能性
- より多くのエンティティの参画
- 発注者と技術開発者の技術対話
- 技術者の真価は、どれだけ技術的付加価値をつけられるか